

第5回 桜台小学校・桜台中学校給食のあり方検討委員会

委員からの請求資料一覧

①日本の人口推移

②千葉県の人口推移

③白井市の人口推移

④桜台小学校区・他小学校区の人口推移（③と④を兼ねる資料）

（④について補足資料あり）

⑤給食センター、桜台小中の給食材料購入費（5カ年）

⑥給食センター、桜台小中の給食残菜量及び残菜率（5カ年）

⑦給食センター、桜台小中の給食廃棄処分費（5カ年）

第1章 第1節 1 (2) 将来推計人口でみる50年後の日本

第1節 高齢化の状況

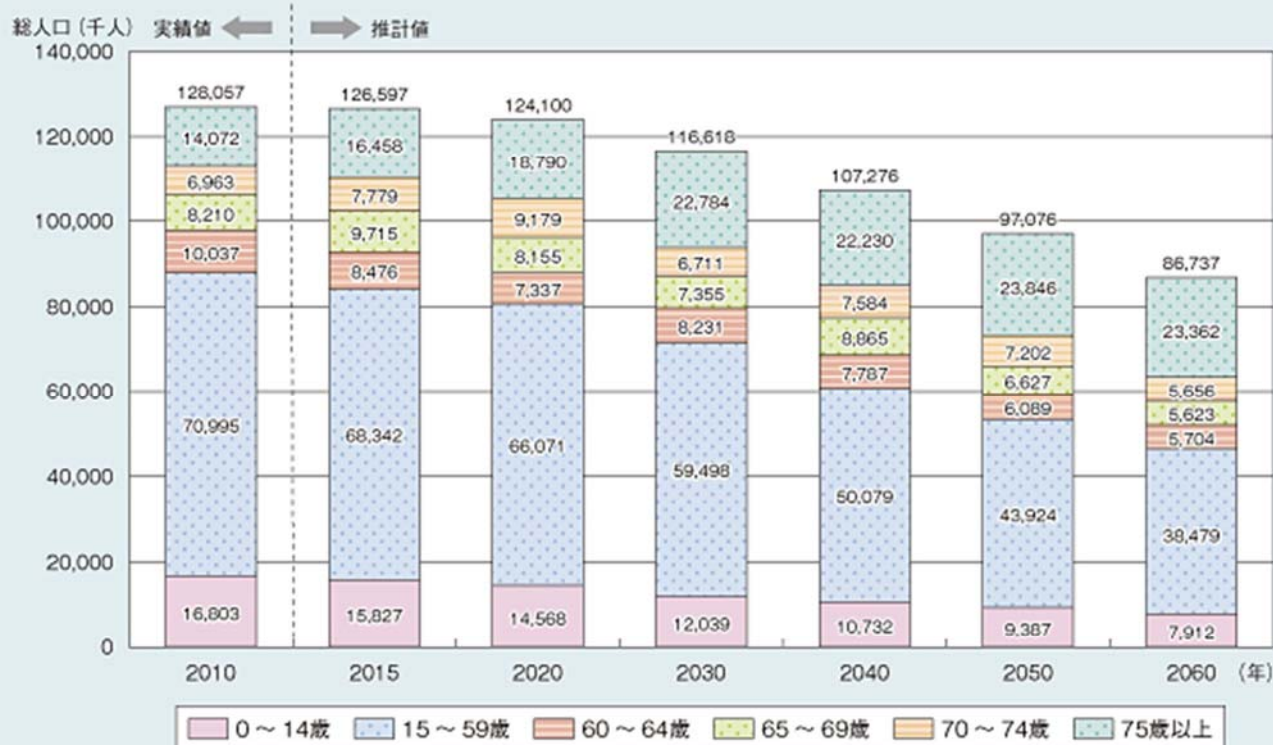
1 高齢化の現状と将来像

(2) 将来推計人口でみる50年後の日本

将来推計人口とは、全国の将来の出生、死亡及び国際人口移動について仮定を設け、これらに基づいて我が国の将来の人口規模並びに年齢構成等の人口構造の推移について推計したものである。以下、平成24(2012)年1月に国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の将来推計人口」における出生中位・死亡中位推計結果（以下、本節においてはすべてこの仮定に基づく推計結果）を概観する。

ア 9,000 万人を割り込む総人口 我が国の総人口は、今後、長期の人口減少過程に入り、平成38(2026)年に人口1億2,000万人を下回った後も減少を続け、60(2048)年には1億人を割って9,913万人となり、72(2060)年には8,674万人になると推計されている（図1-1-3）。

図1-1-3 年齢区分別将来人口推計



資料：2010年は総務省「国勢調査」、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果
 （注）2010年の総数は年齢不詳を含む。

(5) 推計結果

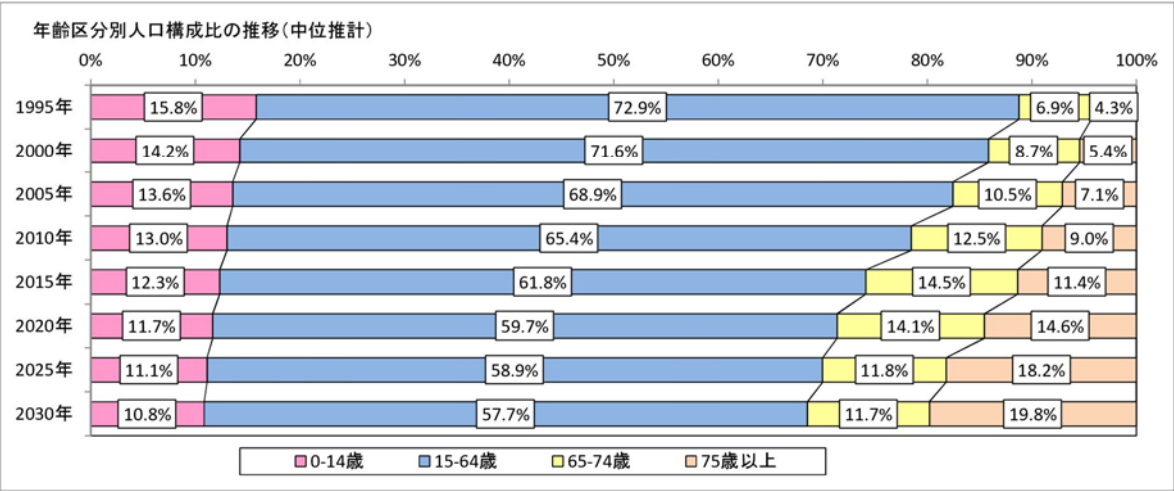
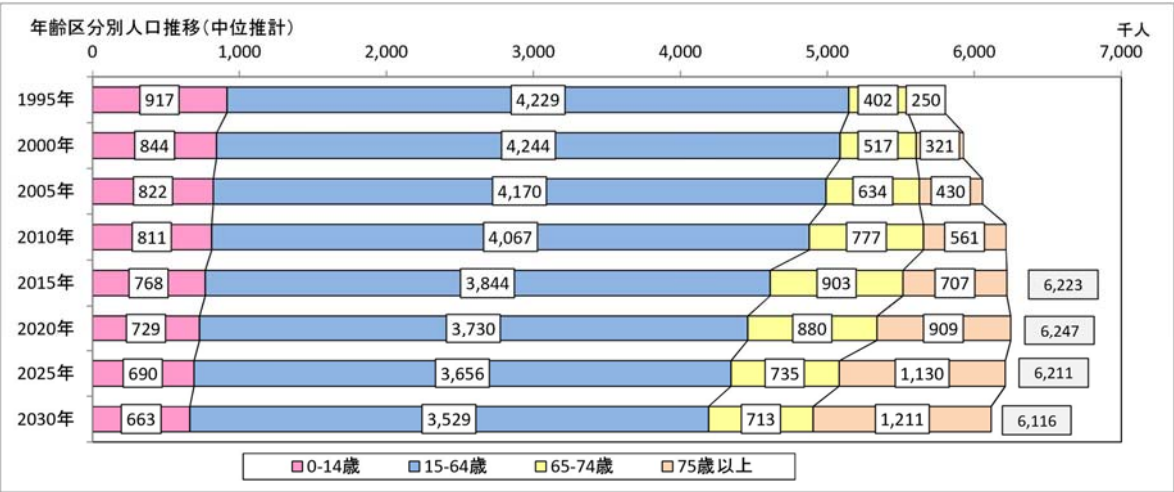
①中位推計

図表 8 人口数、年齢区分別人口・構成比の推移

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年
人口総数	5,797,782	5,926,285	6,056,462	6,216,289	6,222,666	6,247,292	6,210,908	6,115,569
増減数	242,353	128,503	130,177	159,827	6,377	24,626	▲ 36,385	▲ 95,338
増減率	4.4%	2.2%	2.2%	2.6%	0.1%	0.4%	-0.6%	-1.5%

0-14歳	916,572	844,077	822,367	810,930	767,523	728,597	690,162	662,622
15-64歳	4,228,951	4,243,914	4,170,319	4,067,266	3,844,491	3,729,640	3,655,698	3,529,058
65-74歳	402,220	516,941	633,862	776,822	903,172	879,577	734,878	713,353
75歳以上	250,040	321,353	429,915	561,272	707,480	909,479	1,130,170	1,210,536
(65歳以上)	652,259	838,294	1,063,776	1,338,094	1,610,652	1,789,056	1,865,048	1,923,890

0-14歳	15.8%	14.2%	13.6%	13.0%	12.3%	11.7%	11.1%	10.8%
15-64歳	72.9%	71.6%	68.9%	65.4%	61.8%	59.7%	58.9%	57.7%
65-74歳	6.9%	8.7%	10.5%	12.5%	14.5%	14.1%	11.8%	11.7%
75歳以上	4.3%	5.4%	7.1%	9.0%	11.4%	14.6%	18.2%	19.8%
(65歳以上)	11.3%	14.1%	17.6%	21.5%	25.9%	28.6%	30.0%	31.5%



(2) 推計結果

白井第一小学校区、白井第二小学校区と南山小学校区の人口は、平成27年以後、一貫して減少していくものと見込まれます。

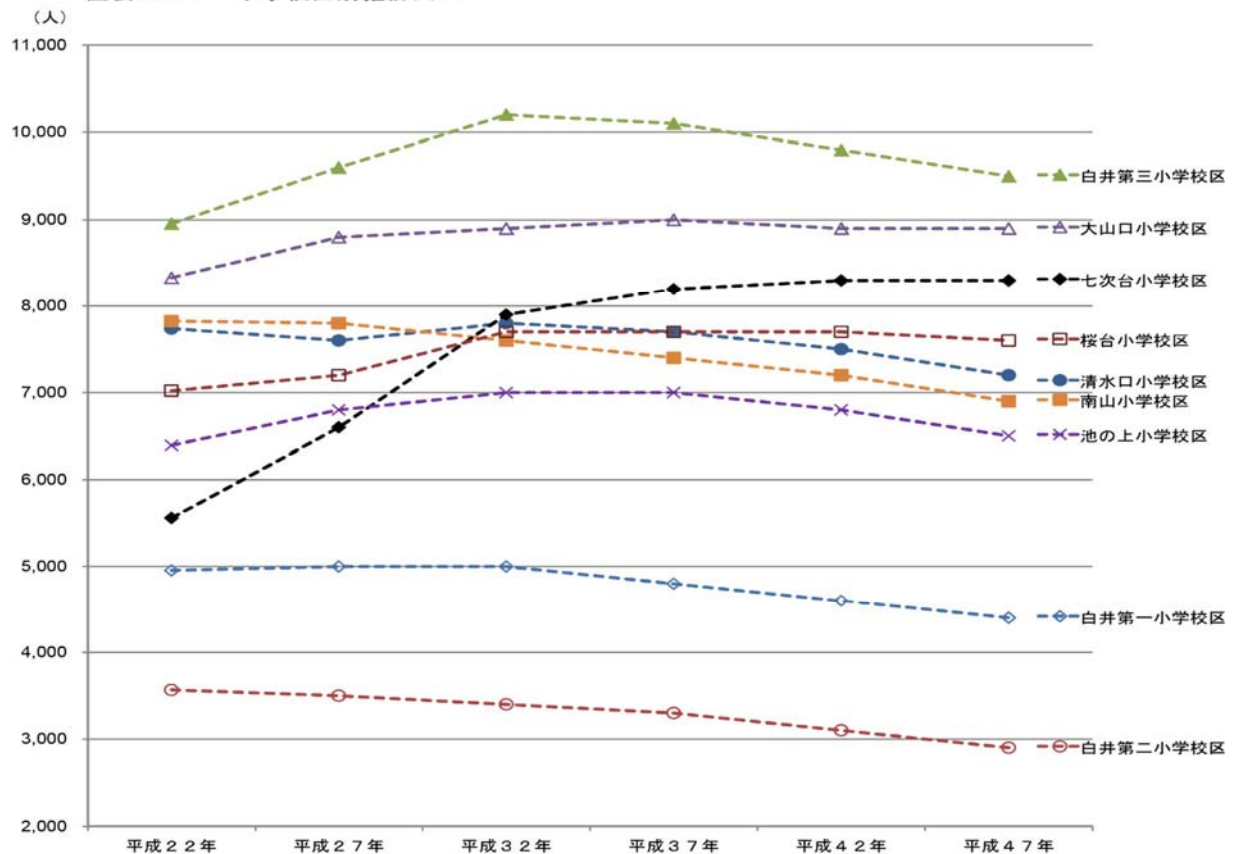
その他の小学校区の人口は、開発に伴う人口流入に伴って増加するものの、長期的には減少傾向に転じるものと見込まれます。

図表6-1 小学校区別推計人口

(単位：人)

	実績	推計				
	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
白井第一小学校区	4,955	5,000	5,000	4,800	4,600	4,400
白井第二小学校区	3,567	3,500	3,400	3,300	3,100	2,900
白井第三小学校区	8,956	9,600	10,200	10,100	9,800	9,500
大山口小学校区	8,332	8,800	8,900	9,000	8,900	8,900
清水口小学校区	7,738	7,600	7,800	7,700	7,500	7,200
七次台小学校区	5,560	6,600	7,900	8,200	8,300	8,300
南山小学校区	7,824	7,800	7,600	7,400	7,200	6,900
池の上小学校区	6,392	6,800	7,000	7,000	6,800	6,500
桜台小学校区	7,021	7,200	7,700	7,700	7,700	7,600
合計	60,345	62,900	65,500	65,200	63,900	62,200

図表6-2 小学校区別推計人口



⑨桜台小学校区

桜台小学校区の平成37年の人口は、7,700人と推計されます。平成42年まで開発による人口流入に伴い増加し、その後減少していく見込みです。

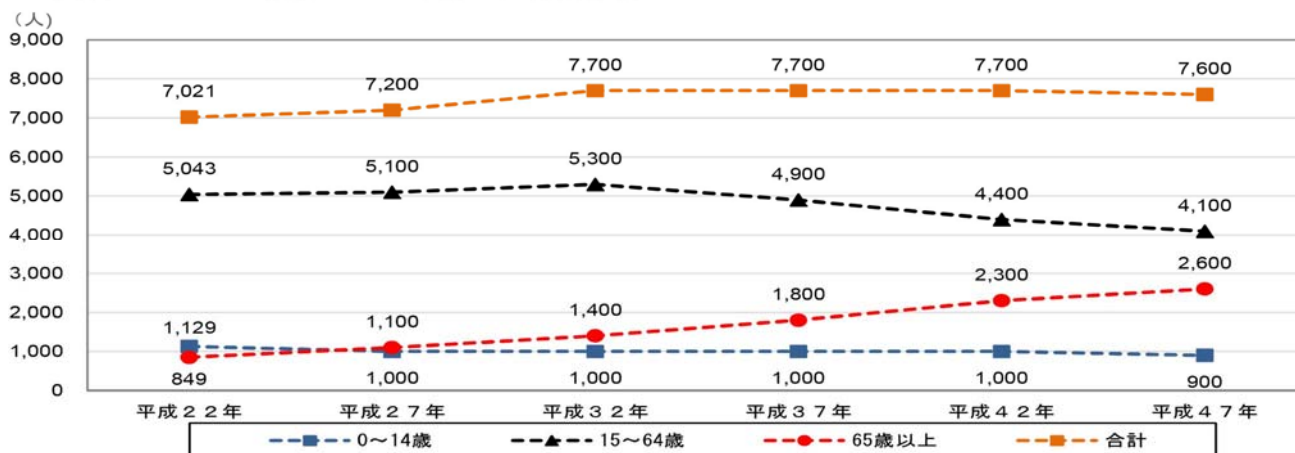
また、年少人口はおおむね横ばいで推移する見込みです。生産年齢人口は平成32年をピークに減少する一方で、高齢者人口は増加する見込みです。

図表6-29 推計人口と年齢3区分別推計人口（比率）

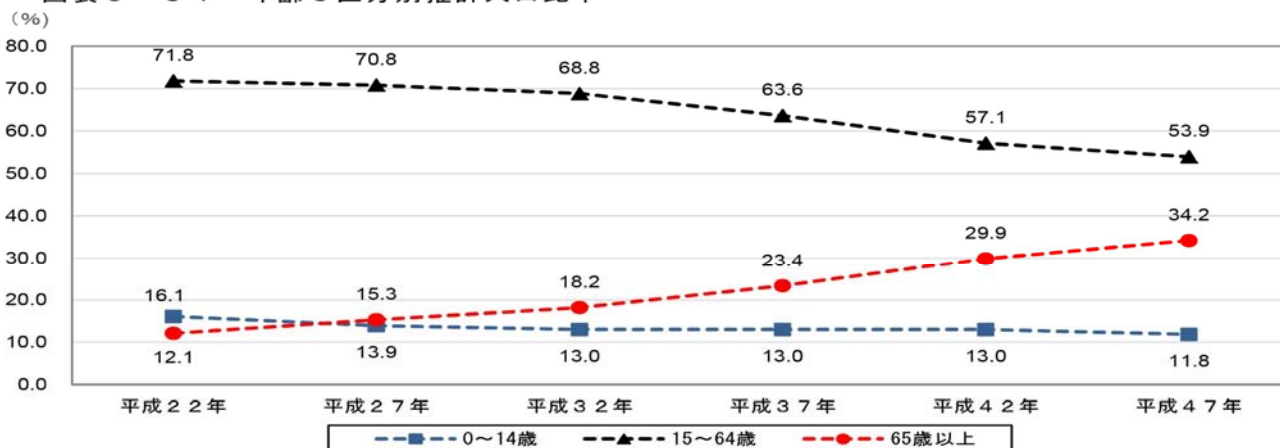
（単位：人、％）

		実 績	推 計				
		平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
人 口	0～14 歳	1,129	1,000	1,000	1,000	1,000	900
	15～64 歳	5,043	5,100	5,300	4,900	4,400	4,100
	65 歳以上	849	1,100	1,400	1,800	2,300	2,600
	うち 75 歳以上	341	500	600	800	1,000	1,300
	合 計	7,021	7,200	7,700	7,700	7,700	7,600
比 率	0～14 歳	16.1	13.9	13.0	13.0	13.0	11.8
	15～64 歳	71.8	70.8	68.8	63.6	57.1	53.9
	65 歳以上	12.1	15.3	18.2	23.4	29.9	34.2
	うち 75 歳以上	4.9	6.9	7.8	10.4	13.0	17.1
	合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

図表6-30 推計人口と年齢3区分別推計人口



図表6-31 年齢3区分別推計人口比率



	H28	H29	H30	H31	R2
学校給食センター ・小中学校別に発注していないため 分けることはできません。	322,868,786円	326,905,108円	325,664,224円	286,409,801円	276,166,111円
桜台小学校	22,530,896円	22,650,532円	22,489,768円	20,402,018円	19,860,800円
桜台中学校	18,665,571円	17,923,811円	16,648,826円	13,203,108円	12,130,013円
桜台小学校・中学校 合計	41,196,467円	40,574,343円	39,138,594円	33,605,126円	31,990,813円

			H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度
			旧 学校給食共同調理場			現 学校給食センター	
学校給食センター	小学校	残菜率	※1 12.2	※1 13.8	※1 11.4	※1 20.8	※1 16.8
		5/1児童数	3,553	3,659	3,746	3,881	3,952
	中学校	残菜率	※1 11.4	※1 12.2	※1 8.8	※1 15.7	※1 16.3
		5/1生徒数	1,771	1,843	1,862	1,793	1,719
	小中平均	残菜率	※1 11.8	※1 13.0	※1 10.1	※1 18.3	※1 16.6
		児童生徒数計	5,324	5,502	5,608	6,574	5,671

		H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度
桜台小学校	残菜率	4.5	4.8	5.5	※2 4.3	※2 5.6
	5/1児童数	381	379	377	378	358
桜台中学校	残菜率	6	7.7	5.7	※2 5.5	※2 4.1
	5/1生徒数	261	251	227	200	184
桜台小中平均	残菜率	5.3	6.3	5.6	※2 4.8	※2 4.9
	児童生徒数計	642	630	604	578	542

※1 現学校給食センターでは汁物等をそのまま計測していますが、

旧学校給食共同調理場では、残菜をザルにあけ、汁等（ルーも含む）を除いて計測していました。

※2 残菜の計測内容は、旧学校給食共同調理場 主食（揚げパンのみ）・主菜・副菜・汁物

現学校給食センター 主食（ご飯・揚げパン）・主菜・副菜・汁物

桜台小学校・中学校 主食（全て）・主菜・副菜・汁物・デザート・牛乳・ふりかけ・チーズ等

ですが、※2は現学校給食センターと比較するため、デザート・牛乳・ふりかけ・チーズ等の残菜率は除いて計算しています。

※ 残菜の計測方法 現学校給食センターは全て重量を計測していますが、桜台小中学校は個数物・牛乳については目視により判断しています。

区 分		H28	H29	H30	H31	R2
		旧 学校給食共同調理場			現 学校給食センター	
旧 学校給食共同調理場（市負担） ・給食残滓及び給食調理に係る可燃・不燃ごみ	処分量（kg）	119,772	123,578	119,998	82,504	77,890
	処分費用（円）	3,652,343	3,790,725	4,477,832	5,436,287	3,894,381
現 学校給食センター（PFI事業者負担） ・施設内からでる全てのごみ （ <u>草刈りごみ・事務系ごみ</u> ・給食残滓・調理中にでる可燃・不燃ごみ等） ※PFI事業者は、市からの「学校給食センター維持管理運営業務委託料」で運営しており、この委託料は物価変動により変動しますが、廃棄物量によっては変動はしません。	5/1現在 児童・生徒数（人）	5,324	5,502	5,608	6,574	5,671
	児童生徒 1人当たり費用（円）	686.0	689.0	798.5	826.9	686.7

区 分		H28	H29	H30	H31	R2
桜台小学校（市負担） ・調理中にでる生ごみ・残菜	処分量（kg）	3,425.9	3,436.2	3,600.8	3,488.3	3,320.9
桜台中学校（市負担） ・調理中にでる生ごみ・残菜	処分量（kg）	3,881.5	3,723.6	3,445.9	2,583.0	2,145.3
桜台小中学校 処分量合計・処分費用	処分量計（kg）	7,307.4	7,159.8	7,046.7	6,071.3	5,466.2
	処分費用（円）	221,399	270,592	289,193	397,021	360,768
	5/1現在 児童・生徒数（人）	642	630	604	578	542
	児童生徒 1人当たり費用（円）	344.9	429.5	478.8	686.9	665.6

学校給食と食育



学校法人食糧学院 東京栄養食糧専門学校
渡邊智子

学校給食（ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典）

学児童，生徒の心身の健全な発達と国民の食生活の改善をはかるため，学校で集団的に行なわれる給食。

1954年には学校給食法が制定された。同法は義務教育諸学校での給食を奨励するもので，学校給食の目標，設置者，国および地方公共団体の任務，経費の負担関係，国の補助などを定めている。

教育課程において，**特別活動**のなかに教育活動の一部として正規に位置づけられ，保健指導，安全指導，学校図書館の利用指導などとともに「**学級活動**」の**重要な一環**として指導されるようになっている。

2005年には，学校給食を教材として活用し食に関する指導の充実をはかるため，栄養教諭制度が創設された。

食育，大切と考えていること

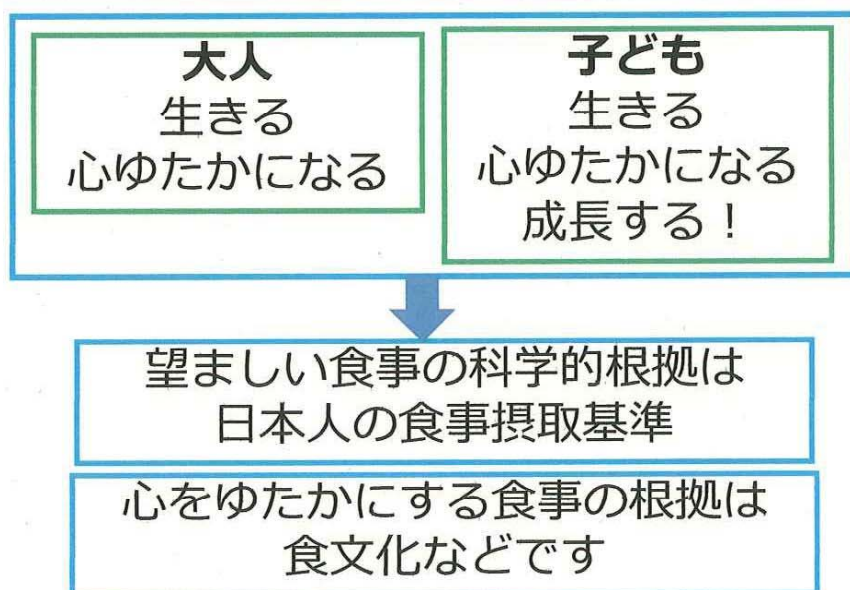
元気に生きるための望ましい食べ方（食事など）を楽しく分かり易く伝えたい

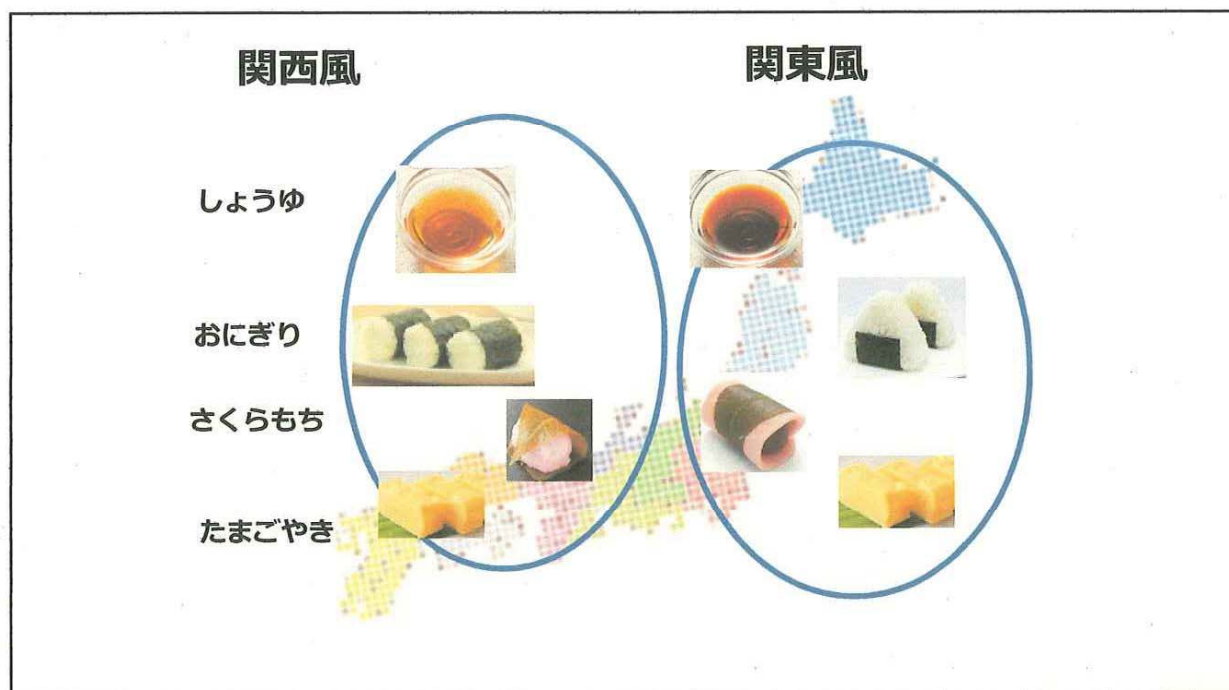
食事は科学的側面と文化的側面があることを伝えたい

栄養教諭・学校栄養職員による食に関する指導は、子ども達にとってなぜ必要か

上述したことを理解することは、生きる力につながります

食事を食べる目的





「生きた教材」とは

子どもが毎日食べている学校給食です

子ども達、地域等にとってどのような効果があるのか。

子ども：給食は全員が同じ食事を食べるので、全員が共通理解できます

地域：献立を地域のスーパーなどに提示する、地域の食材を使うなどにより、地域にも望ましい食事を伝えること、地域と学校とのつながりができ、地域連携ができます

食に関する指導で学校栄養教諭・学校栄養職員ができること

食の専門家として

- ・ 児童生徒への教科・特別活動等における教育指導
- ・ 食に関する指導の連携・調整
- ・ 児童生徒への個別的な相談指導

食に関する指導で給食主任・学級担任・教科ができること

栄養教諭・学校栄養職員と連携して

- ・ 児童生徒への教科・特別活動等における教育指導
- △・ 食に関する指導の連携・調整
- ×・ 児童生徒への個別的な相談指導

千葉県（小学校全校）などが自校式の理由

この方式のメリットがあるため

各学校に栄養教諭がいることは、センター方式に比べ食育の時間が多くなり、子どもの食への理解が深まると予測されます

調理方式による喫食率の違い

喫食率は、担任の食育指導（給食への考え方）、学校全体の食育への取り組み、献立など様々な要因で左右されます
喫食率の向上は、栄養教諭の熱意、学校全体の食育への理解と熱意が大きいと感じています

食育の向上のためには

リーダーの力

- ・ 市長が食育を重視している
- ・ 教育委員会委員長が食育を重視している
- ・ 校長が食育を重視している

栄養教諭の力

- ・ 熱意
- ・ コミュニケーション

学校全体の食育への理解と連携

- ・ 担任の理解と協力
- ・ 保護者や地域への働きかけ

桜台小中学校と白井市

自校式を続ける場合

- ・ 桜台以外の小中学校の子どもから見ると、桜台小中学校のみが優遇されているように感じるのではないのでしょうか
- ・ 桜台の自校式を継続する場合には、市民への説明が必要と考えます
- ・ 例えば、桜台を食育特別校とし他の小中学校の食育を手厚つくる工夫も必要

センター方式に変更する場合

- ・ 各学校の食育を現在の桜台と同様のレベルにするよう、白井市として目指してほしい（具体的な計画を市民に提示してほしい）